

広島県農業信用基金協会

1. 広島県の紹介

広島県は中国地方に位置し北部を中国山地、南部を瀬戸内海に囲まれた県です。世界遺産に登録されている原爆ドームに代表されるように平和都市として世界的にも有名で、最近では令和5年に日本で開催される主要国首脳会議（G7サミット）の開催地に決定しました。また、広島東洋カープ（野球）、サンフレッチェ広島（サッカー）、JTサンダーズ（バレーボール）、広島ドラゴンフライズ（バスケットボール）といった全国のトップリーグで活躍するプロスポーツチームが存在し、日本人初のオリンピック金メダリスト織田幹雄さん（陸上男子三段跳び）を輩出するなど、スポーツ王国とも呼ばれています。

「広島」の名の由来は諸説がありますが、天正17年（1589年）、毛利輝元が広島城築城の鋤入れの時に命名したといわれています。

広島県の推計人口は令和4年5月現在で276万3千人となっており平成10年11月のピーク時から約12万人減少しています。中山間地域が県土の4分の3を占めるなど、土地条件に恵まれない本県にあっては、担い手の減少と高齢化が進み、次世代への農業生産の継承が大きな課題となっています。



2. 広島県の農業

広島県の農業は、全国に比べ農業従事者の高齢化が進んでいますが、県・市町並びにJAが新規就農者への技術研修や資金援助を積極的に行い、就農者の増加に向け取り組んでいます。また、県の施策として集落営農の組織化、法人化を推進し、その結果、集落法人数は令和4年4月現在で270法人となり全国でも有数の設立数となりました。近年は法人化のスピードの減速や解散等もあり、集落法人による水田カバー率は17.8%

にとどまっています。

農業生産では、北部高冷地から沿岸島しょ部地域に至る多様な自然状況を生かして、米・野菜・果樹・畜産を基幹とした多様な農業を展開しています。

農業産出額は1,190億円（令和2年度）で、その構成は米（19.8%）、野菜（20.8%）、果実（14.1%）、畜産（40.9%）となっており、近年では水稲中心から野菜・果樹等への転換が進められています。

（収穫量全国第1位の農産物）



レモン



くまい



わけぎ

3. 広島県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事 11 名（うち常勤 2 名）、監事 3 名の役員 14 名、職員 29 名で、総務課・事務管理課・審査課・管理課・業務推進課の 5 課及び県信連との共通機構としての融資センターで業務運営を行っています。



4. 広島県農業信用基金協会の活動

当協会では、平成10年からスタートした第5次長期経営計画時より農家・組合員に対する「融資支援・相談センター機能」と融資機関に対する「ローン管理センター機能」の構築と強化に取り組んで参りました。

融資支援・相談センター機能として、集落法人や新規就農者の経営実態や課題等の把握に努め、継続的に商品性の見直しや関係機関への情報発信を行っています。

また、ローン管理センター機能を進める柱として、自動審査システムやWEB申込システムなどを各県と連携し共同開発するなど一定の成果をあげてきました。今後は貸出システムや保証審査システムの全国統一化への移行が進む中で、既存システムに

劣後しない効率的・効果的な運用方法を検討していく必要があります。

保証残高は、平成24年度から減少していましたが平成29年度から増加に転じ、令和3年度末では3,648億円と過去最高となりました。

なお、本県においても金利競争など融資機関における融資獲得競争が激化する中、JA系統内の保証機関との競合に加え、系統外の保証機関もJAに積極的にアプローチをかけてきています。本会としても保証リスクに十分配慮し、融資機関の要望も踏まえ保証料の引下げや推進活動の強化など、保証利用の向上対策に取り組み、選ばれ利用される保証機関を目指していきます。